

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

園名	久米川保育園
日時	令和7年8月1日

1. 活動テーマ

<テーマ>

自然・・・4歳児「色水遊び」

<テーマ設定理由>

「花」の図鑑で紹介されていた花びらを使った遊びに興味を持ち、種をまく時から色水遊びをして遊ぶことを楽しみにしていた。しかし、酷暑のためか白と薄紫の小さい花しか咲かなかった。8月1日は久しぶりに戸外で遊べる気温だったので、色水遊びをしたい子どもの言葉を受けとめ、ビニール袋を準備して遊びを見守る。

2. 活動スケジュール

5/8(木)・・・あさがおの種をまく。

5/14(金)・・・おしろいばなの種をまく。

6/10(火)・・・あさがおが咲くことを楽しみにしながら、障子紙を絵の具でそめたあさがお製作をする。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・ビニール袋
- ・プラスチックカップ
- ・テーブル

4. 探究活動の実践

<活動内容>

- ・猛暑が続き、久しぶりに園庭遊びにをす。
- ・子ども達はあさがおやおしろいばなに水やりをしている。
- ・花が咲いたこと、花の生長を気かけ、観察している。
- ・咲いたあさがおやおしろい花に興味を持つ。
- ・子どもが自発的に色水遊びを提案し楽しむ。
- ・花のどの部分が色が出るのか、どの色の花を使おうか考えている。
- ・ビニールにどのくらいの水を入れるか考えている。
- ・花を摘み、ビニールに入れてどうしたら色が出てくるか考えたり試している。
- ・水が入ったビニール袋をもんだり、振ったりゆすったりしながら水の色が変わることを楽しみにして眺めている。
- ・色が薄く色づき始めてその変化に気づく。
- ・もっと色が濃くなるようにするにはどうしたらいいか考えている。
- ・花の色を増やしたり、数を増やすことによってどんな変化が生じるか考える。
- ・友達のつくった色水と自分で作った色水との違いに気づく。
- ・どうしたら自分が望む色になるかの探究。
- ・こんな色になるかなと予測したり想像したりする探究。
- ・もっといろいろな色が出ることを期待して意欲的に楽しむ。
- ・色が出る花、出ない花への疑問や知識の拡大。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関り>

N・・・「ピンク、ピンク、できたよ」

T・・・「あー、おんなじ！」

N・・・「みて！今度は赤色になった！」

R・・・「みて、わたしはピンク！」

ビニール袋に鼻を入れて、友達同士で色が変わる様子を楽しむ姿が見られる。

H・・・「あー、できないよ」

Ry・・・「ほら、こうやってつぶすんだよ」

H・・・「みてー、めっちゃ赤になっちゃった！」

困っている友達にやり方を教えてあげる姿が見られ、色水ができると一緒に嬉しそうにする。

Ti・・・「あ、これ、泳いでる」

水の中で揺れ動く花の様子をじっと見て、嬉しそうに言葉にする。

S・・・「(さるすべりの花を一生懸命つぶしながら)どうすれば、赤にできるの？」

保育士・・・「色のでない花もあるのかなあ」

T・・・「白い花はならないの？」

思うようにならないと、どうしてなのかと疑問を持ち試したり、友達とやったことを言い合ったりする姿が見られる。



5. 振り返り <振り返りによって得た先生の気づき>

- ・知識が増え、こうしたらこうなるんじゃないか、こうなったらこうしよう、など見通しを持って過ごしたり楽しむことができるようになっていく。
- ・色水遊びをしたいと子ども達から声があがり、必要なものを保育士に求め、花のつぼみはまだとったらだめだよ、などと子ども達同士で教え合い遊びをすすめられるようになっていく。
- ・知りたいという気持ちから絵本や図鑑を開き、気づいたことや思ったことを友達と伝え合い、共有することで次への探究につながっているように見受けられた。
- ・思うように花が育たなかったこと、こんな色になったよ、このピンクの花はどうして色がでないんだろう等々、実際に試すことで得られる経験すべてにおいて、考える力が養われているのだとあらためて感じる事ができた。
- ・子ども達が興味を持っているものに保育士が寄り添い、必要なものを提供できるような準備を整えたい。
- ・子ども達同士のやりとりを見守り、保育園生活を自分達のものにしていけるような手助けや導きができるよう、言葉を選んで関わっていききたい。